

令和元(平成31)年度 事業計画・予算決まる

令和元(平成31)年度の事業計画・予算が各委員会、代議員会議、理事会、評議員会で協議され、決定された。各会議は埼玉会館において開催された。(3頁から掲載)

各委員会

2月26日に教化委員会(河野亮玄委員長)、3月4日に総務委員会(山口正純委員長)、3月8日午前に組織委員会(馬場知行委員長)、午後に財務委員会(井倉賢照委員長)が開催されそれぞれの活動方針が確認された。



第二回代議員会議

3月25日午前10時30分から平成三十年度第二回代議員会議が開催された。議長に豊田春勇代議員(入間)が選出された。出欠一覧は5頁。

第四回理事会

3月25日午後1時30分から平

成三十年度第四回理事会が開催された。出欠一覧は5頁。

第一回臨時評議員会

3月29日午後1時30分から平成三十年度第一回臨時評議員会が開催された。議長に外岡信昭評議員が選出された。代議員会議、理事会から上程された、事業計画案、予算案が協議され、承認された。



「埼玉県共同募金会」 歳末助け合い募金協力

平成31年2月12日(火)、本会は、倉持秀裕会長から埼玉県共同募金会へ歳末助け合い募金60万円を手渡した。内50万円を更生保護法人「清心寮」に指定寄付を行い、10万円を共同募金会へ寄附した。



❖❖ 一般財団法人埼玉県佛教会 令和元(平成31)年度事業計画 ❖❖

基本方針

埼玉県内寺院教会の緊密な連携のもと、県下佛教活動の推進、発展に努め、もって道心の高揚と教化の促進を図り、社会の浄化と佛教文化の向上に寄与するため、次の諸事業を行なう。

事業計画

○総務

- 1 第41回埼玉県佛教徒大会の開催（主管 三郷市仏教会・東部地区）
期日：平成31年10月16日（水）
会場：三郷市文化会館
- 2 人権教育並びに「埼玉同宗連」との連携
 - ①「埼玉同宗連」主催研修会・現地学習会への参加
 - ②部落解放同盟埼玉県連合会主催「人権フォーラム」への参加
期日：平成31年11月28日（木） 会場：久喜市総合文化会館
 - ③人権教育・啓発推進埼玉県実行委員会への協力（会長に倉持秀裕当会会長が就任）
- 3 佛教徒募金、歳末助け合い運動の実施
 - ①佛教徒募金（善意銀行・歳末助け合い運動寄付）
 - ②共同募金会へ歳末助け合い運動寄付（佛教徒募金より）

○財務

- 1 会費納入と未納整理
会費納入未納地区・会員への呼びかけ
- 2 埼玉会館の管理運営
 - ①貸店舗（2社）・貸事務所（2団体、2社）・駐車場（月極、時間貸）の管理運営
 - ②会議室（埼玉県庁、埼玉弁護士会ほか）の管理運営ならびに利用促進

○教化

- 1 第71回埼玉県各流讃佛歌奉詠大会の開催
期日：平成31年9月30日（月）
会場：埼玉会館「大ホール」
- 2 第12回埼玉佛教文化講座の開催
一般（檀信徒）に向けた仏教文化等に関する講座の開催
- 3 更生保護事業の推進・助成（清心寮）
 - ①更生保護法人「清心寮」へ助成（80万円）
 - ②法務省「社会を明るくする運動（犯罪防止・更生保護啓発活動、7月強化月間）」への協力
- 4 宗教法人研修会への参加推進
宗教法人研修会（埼玉県総務部学事課・埼玉県宗教連盟共催）への協力、参加推進
・研修会会場（さいたま会場）として埼玉会館を提供
・平成30年度実績：
さいたま会場（埼玉会館）平成31年2月22日（金）
川越会場（ウェスタ川越）平成31年2月25日（月）
- 5 機関紙『埼玉佛教』発行等の広報活動
 - ①機関紙『埼玉佛教』年4回発行
 - ②ホームページの運営（<http://www.saibutu.net>）

○組織

- 1 休眠地区対策
休眠地区の再建、組織化を目指す
- 2 組織の強化と全一仏教意識の高揚推進
- 3 県佛青及び県佛保の育成並びに全青協への助成
各団体に助成金

□新社会問題への対応

- ①散骨問題への対応（対応方針の確立、研究学習会の開催）
- ②子どもの貧困問題への対応（対応方針の確立、研修会の開催）

□善意銀行

義捐金及び仏教教化事業への助成

- ①義捐金（全日本仏教会へ寄託）
 - ・平成29年度実績：九州北部豪雨（20万円）
福島県仏教会義援金（10万円）
 - ・平成30年度実績：平成30年7月豪雨（30万円）
北海道胆振東部地震（20万円）
- ②全日本仏教会 大蔵経テキストデータベース事業への協力

□埼玉県ならびに埼玉県警察本部との連携

埼玉県ならびに埼玉県警察本部との協同活動
『交通安全運動の推進』、『振り込め詐欺防止』、『仏像盗難防止』、『暴力団排除』等

一般財団法人埼玉県佛教会 令和元(平成31)年度 予算 (単位:円)

科 目	公益事業	法人会計	収益事業	31年度合計	30年度	増減	備 考	
	【公益目的】	【一般会計】	【特別会計】					
収 入	会 費 収 入		13,040,000		13,040,000	13,040,000	0	1ヵ寺8,000円
	佛 教 徒 募 金 収 入		3,040,000		3,040,000	3,040,000	0	目標額1ヵ寺2,000円
	奉 詠 大 会 収 入	1,500,000			1,500,000	1,600,000	△100,000	
	利 息 収 入		10,000		10,000	10,000	0	預金利子
	賛 助 金 収 入		1,600,000		1,600,000	1,600,000	0	灯明料・年賀広告・協賛広告・関連団体協賛金
	雑 収 入		60,000		60,000	60,000	0	印刷代・コピー代(会議室利用者)
	貸 事 務 所 収 入			8,500,000	8,500,000	8,500,000	0	更新料含む
	駐 車 場 収 入			4,600,000	4,600,000	4,600,000	0	更新料含む
	施 設 利 用 料 収 入			2,000,000	2,000,000	2,000,000	0	埼玉佛会館会議室利用料
	代 理 店 収 入			100,000	100,000	100,000	0	第一生命・アフラック・東京海上日動
前 期 繰 越		8,000,000		8,000,000	8,000,000	0		
経 常 収 益 合 計	1,500,000	25,750,000	15,200,000	42,450,000	42,550,000	△100,000		
支 出	奉 詠 大 会 費	2,600,000			2,600,000	2,500,000	100,000	
	県 佛 大 会 費	1,200,000			1,200,000	1,200,000	0	
	仏 教 文 化 講 座 費	600,000			600,000	500,000	100,000	
	善 意 銀 行		600,000		600,000	600,000	0	
	広 報 費	1,500,000			1,500,000	1,500,000	0	「埼玉佛教」4回発行、ホームページ、関連団体広告
	育 成 費	450,000			450,000	450,000	0	埼玉佛青・埼玉佛保・日仏婦
	全日本仏教会寄附金	650,000			650,000	650,000	0	
	「埼玉宗連」寄附金	350,000			350,000	350,000	0	
	「埼玉同宗連」寄附金	77,000			77,000	77,500	△500	
	地区教化活動助成金	1,800,000			1,800,000	1,530,000	270,000	地域行事助成
	埼玉県教誨師会寄附金	100,000			100,000	100,000	0	
	更生保護法人「清心寮」寄附金	300,000			300,000	300,000	0	
	歳末助け合い運動寄附金	600,000			600,000	600,000	0	共同募金会(「清心寮」へ指定寄附金50万円)
	全国青少年教化協議会寄附金	100,000			100,000	100,000	0	
	そ の 他 寄 附 金	55,000			55,000	55,000	0	県交通安全対策協議会、シャンテ国際ボランティア会、さいたま緑のトラスト協会、彩の国コミュニティ協議会
	事 業 費 計	10,382,000	600,000		10,982,000	10,512,500	469,500	
	給 料 ・ 手 当	2,940,000	420,000	5,040,000	8,400,000	8,400,000	0	4名分
	顧 問 料	35,000	140,000	525,000	700,000	700,000	0	税理士顧問料・司法書士報酬
	管 理 費	75,000	300,000	1,125,000	1,500,000	1,500,000	0	エレベーター管理・塵芥・モップ交換・防犯警備
	賃 金 ・ 報 酬	45,000	5,000	50,000	100,000	100,000	0	アルバイト賃金
	租 税 公 課	260,000	1,040,000	4,500,000	5,800,000	5,700,000	100,000	固定資産税・謄本・法人税・消費税
	保 險 料	20,000	80,000	300,000	400,000	400,000	0	火災保険・傷害保険・あんしん財団
	福 利 厚 生 費	67,500	7,500	75,000	150,000	150,000	0	コーヒー・お茶・残業食事・常備薬
旅 費	585,000	39,000	26,000	650,000	650,000	0	職員旅費	
会 議 費	900,000	60,000	40,000	1,000,000	1,000,000	0	評議員会・理事会・代議員会議・委員会 諸費用	
報 償 費 ・ 旅 費	1,260,000	84,000	56,000	1,400,000	1,400,000	0	役員旅費、30年度 WFB 世界大会	
光 熱 水 費	770,000	110,000	1,320,000	2,200,000	2,200,000	0	電気・水道	
印 刷 費	270,000	18,000	12,000	300,000	300,000	0	名刺・封筒	
書 籍 費	135,000	9,000	6,000	150,000	150,000	0	新聞雑誌購読料・書籍購入費	
備 品 費	40,000	40,000	720,000	800,000	800,000	0	会館備品	
消 耗 品 費	227,500	32,500	390,000	650,000	650,000	0	コピー用紙・文具・カウンター料	
通 信 費	262,500	37,500	450,000	750,000	750,000	0	電話・郵便料・運賃・ジェイコム・葉書	
賃 借 料	767,000	52,000	31,000	850,000	900,000	△50,000	事務機器リース料	
研 修 交 流 費	180,000	12,000	8,000	200,000	150,000	50,000	他団体との交流・研修	
交 際 費	180,000	12,000	8,000	200,000	200,000	0		
中 退 共 掛 金	161,000	23,000	276,000	460,000	560,000	△100,000	職員退職金積立	
慶 弔 費	135,000	9,000	6,000	150,000	150,000	0		
修 理 費	350,000	50,000	600,000	1,000,000	1,000,000	0		
雑 費	45,000	3,000	2,000	50,000	50,000	0	送金料、残高証明他	
管 理 費 計	9,710,500	2,583,500	15,566,000	27,860,000	27,860,000	0		
積 立 金		2,000,000		2,000,000	2,000,000	0	修繕積立	
予 備 費		1,608,000		1,608,000	2,177,500	△569,500		
経 常 費 用 合 計	20,092,500	6,791,500	15,566,000	42,450,000	42,550,000	△100,000		

《 出 欠 一 覧 》

(○出席者、△委任状、敬称略・順不同)

平成30年度 第2回代議員会議

平成31年3月25日(月)10:30~・埼玉会館 1階多目的ホール

会 長	○ 倉持 秀裕 [蕨・戸田/三学院]	△ 衆原 恒久 [川越/蓮馨寺]
副 会 長	○ 加藤 玄静 [本庄/城立寺]	○ 河野 亮玄 [浦和/東泉寺]
専 務 理 事	○ 深谷 雅良 [入間東部/大應寺]	○ 井倉 賢照 [鷲宮/寿徳寺]
常 務 理 事	△ 山口 正純 [川口/密蔵院]	○ 平川 忠雄 [吉見/観音寺]
監 事	○ 馬場 知行 [鴻巣/宝持寺]	△ 鷲山 真哉 [大宮/多聞院]
代 議 員	○ 河野 亮仙 [浦和/延命寺]	△ 小堤 孝雄 [川口/傑傳寺]
	○ 梅澤 清真 [加須/徳性寺]	○ 小澤 泰明 [上尾/馬蹄寺]
	△ 吉田 英夫 [浦和/浄広寺]	○ 石井 康隆 [朝霞/東林寺]
	△ 佐々木 章友 [与野/妙行寺]	○ 野口 孝之 [吹上/宝蔵院]
	○ 明見 弘道 [鴻巣/善勝寺]	○ 山田 亮裕 [所沢/佛眼寺]
	○ 御嶽 隆雄 [蕨・戸田/観音寺]	△ 西村 宗洋 [狭山/事務局/慈眼寺]
	△ 別所 俊道 [伊奈/法光寺]	○ 横山 亮英 [入間東部/來迎寺]
	○ 佐々木 道 [川越/泉福寺]	○ 渋谷 辨洋 [越生・毛呂山/延命寺]
	○ 平山 暢昭 [飯能/廣渡寺]	△ 志治 孝昭 [小川連合/輪禪寺]
	○ 豊田 春勇 [入間/高正寺]	○ 宮崎 弘照 [川島/円通寺]
	△ 光地 英隆 [坂戸・鶴ヶ島/西光寺]	○ 幸田 恵幸 [鳩山・玉川/光明寺]
	○ 村井 惇匡 [東松山・滑川/妙昌寺]	△ 石田 秀光 [小鹿野/光源院]
	○ 佐伯 頼栄 [都幾川/慈光寺]	△ 大野 宏文 [本庄/開善寺]
	○ 村田 栄保 [吉見/息障院]	△ 宮崎 憲田 [熊谷/實相院]
	○ 柴原 幸保 [秩父/慈眼寺]	△ 秋場 寛雄 [荒南/普門寺]
	○ 土橋 元孝 [北秩父/大林寺]	○ 倉橋 常雄 [寄居・花園・川本/常楽寺]
	△ 靱嶋 光昭 [児玉/長慶寺]	○ 久保 隆夫 [加須/青蓮寺]
	△ 中村 信雄 [深谷/長福寺]	△ 遠藤 隆雄 [岩槻/大光寺]
	△ 備前島 賢光 [妻沼/圓滿寺]	△ 糸溪 文有 [草加/淨捷寺]
	△ 福島 伸悦 [行田/長光寺]	△ 猪俣 哲夫 [久喜/光明院]
	○ 浅野 守信 [羽生/圓照寺]	△ 島崎 英種 [菖蒲/正眼寺]
	△ 児島 信弘 [春日部/玉蔵院]	○ 新井 孝憲 [蓮田/星久院]
	○ 樋口 円准 [越谷/法光寺]	△ 今野 泰男 [宮代/醫王院]
	△ 田口 峰道 [八潮/長安寺]	△ 石垣 正順 [栗橋/深廣寺]
	○ 内田 弘明 [三郷/正円寺]	△ 浅野 知信 [杉戸/馬頭院]
	△ 吉光 英光 [幸手/正福院]	○ 竹内 真紹 [吉川/東泉寺]
	△ 矢部 玄道 [白岡/寿楽院]	
	△ 関根 正孝 [鷲宮/良学院]	
	○ 齊藤 淳道 [松伏/静栖寺]	
	△ 白井 宥宝 [庄和/東光院]	
事 務 局	○ 金子 嘉広 [事務局長]	○ 本間 照康
		○ 永堀 優子

【代議員 出席25名・委任状30名 合計55名/現数55名】 / [地区名/寺院名]

平成30年度 第4回理事会

平成31年3月25日(月)13:30~・埼玉会館 2階東西会議室

会 長	○ 倉持 秀裕 [蕨・戸田/三学院]	○ 衆原 恒久 [川越/蓮馨寺]
副 会 長	○ 加藤 玄静 [本庄/城立寺]	○ 河野 亮玄 [浦和/東泉寺]
専 務 理 事	○ 深谷 雅良 [入間東部/大應寺]	△ 井倉 賢照 [鷲宮/寿徳寺]
常 務 理 事	△ 山口 正純 [川口/密蔵院]	△ 眞島 亮悟 [寄居・花園・川本/浄福寺]
理 事	○ 馬場 知行 [鴻巣/宝持寺]	○ 別所 隆雄 [伊奈/法光寺]
	○ 穂積 容山 [鴻巣/龍昌寺]	○ 津島 英世 [吉川/延命寺]
	○ 菅間 隆惇 [深谷/華蔵寺]	△ 宮寺 守正 [鳩山・玉川/金澤寺]
	○ 矢光 英巖 [蓮田/保福寺]	△ 佐藤 光弘 [行田/遍照院]
	○ 島崎 英種 [菖蒲/正眼寺]	△ 大野 宏文 [本庄/開善寺]
	△ 関口 亮樹 [蓮田/慶福寺]	○ 土橋 元孝 [北秩父/大林寺]
	△ 備前島 賢光 [熊谷/圓滿寺]	○ 高口 善弘 [川口/得信寺]
	○ 金剛 清輝 [川越/養壽院]	○ 平川 忠雄 [吉見/観音寺]
	○ 山田 亮裕 [所沢/佛眼寺]	
	△ 仁部 前崇 [杉戸/上原寺]	
監 事	○ 河野 亮仙 [浦和/延命寺]	
事 務 局	○ 梅澤 清真 [加須/徳性寺]	
	○ 金子 嘉広 [事務局長]	○ 本間 照康
		○ 永堀 優子

【理事 出席16名・欠席9名/現数25名】 / [地区名/寺院名]

平成30年度 第1回臨時評議員会

平成31年3月29日(金)13:30~・埼玉会館 2階東西会議室

評 議 員	○ 石川 法夫 [久喜/善徳寺]	○ 上村 正剛 [岩槻/彌勒密寺]
	△ 大嶋 法道 [岩槻/慈恩寺]	○ 角山 祥隆 [荒南/保安寺]
	○ 藤井 壽雄 [吉川/清浄寺]	○ 馬路 宏樹 [入間/長徳寺]
	○ 實淨 龍彦 [川越/栄林寺]	○ 森田 真隆 [都幾川/全長寺]
	○ 吉田 宏哲 [本庄/宥勝寺]	○ 鷲津 憲道 [越谷/観照院]
	○ 和氣 昭祐 [上尾/相頓寺]	○ 外岡 信昭 [川口/妙仙寺]
	○ 坂東 隆秀 [深谷/正傳院]	△ 福島 伸悦 [行田/長光寺]
	○ 江連 俊裕 [川口/錫杖寺]	○ 木村 秀明 [浦和/成就院]
会 長	○ 倉持 秀裕 [蕨・戸田/三学院]	△ 衆原 恒久 [川越/蓮馨寺]
副 会 長	△ 加藤 玄静 [本庄/城立寺]	○ 河野 亮玄 [浦和/東泉寺]
専 務 理 事	○ 深谷 雅良 [入間東部/大應寺]	△ 井倉 賢照 [鷲宮/寿徳寺]
常 務 理 事	○ 山口 正純 [川口/密蔵院]	△ 平川 忠雄 [吉見/観音寺]
監 事	○ 馬場 知行 [鴻巣/宝持寺]	
事 務 局	○ 河野 亮仙 [浦和/延命寺]	○ 本間 照康
	△ 梅澤 清真 [加須/徳性寺]	○ 大塚 美紀
	○ 金子 嘉広 [事務局長]	

【評議員 出席13名・欠席3名/現数16名】 / [地区名・寺院名]

「第11回埼玉佛敎文化講座」

平成31年2月12日(火)、14時30分から埼玉佛敎館、2階会議室で「第11回埼玉佛敎文化講座」を開催した。講師は『和の香り』創香師の市毛和佳奈先生。開会行事では、倉持秀裕会長が主催者あいさつを行った。参加者は70名。司会は、小池康宏主事補が務めた。

市毛先生は、和の香りの創香師として、数々のイベントを通じてお香の良さを全国に広めながら、毎月1回、京都にある豊臣秀吉の正室ねね様のお寺・高台寺 副執事 尼僧の母親とイベントを開催しているとのこと。講座の前半は『お香の歴史と効能について—お香と仏敎の関係、歴史や効能を学びましょう—』と題して講演いただいた。後半は参加者各々が香木を調合して、

オリジナル「にほひ袋」を創作した。

—以下講演内容(一部抜粋)—

まず、一般的に匂いを嗅ぐときは「香りを嗅ぐ」といいますが、お香の場合は「香りを聞く」と表現します。お香は①直接火をつけて香りを聞くもの②間接的に熱を加えて聞くもの③火を使わずに、常温で香木の香りを聞くものと分類されます。



皆さんが一番親しみのあるお香といえば、形状は様々ですが、「線香」でしょう。②の間接的に熱を加えて香りを聞く方法には、香炉の中に灰を敷き詰め、灰の中に熾した炭を埋め込み、その上に香原料と蜂蜜を混ぜ、熟成させた「練香」とよばれる丸薬状のお香を載せます。すると下から、じわじわと熱が伝わり香りが立ってきます。③は皆様に創っていただく「にほひ袋」などがあり、常温で香りを聞くものです。また、手紙を送るときに香木を入れた袋を同封して送る「文香」や、粉末状にしたお香を直接身体に塗る「塗香」などもあります。塗香は、お釈迦様が初めて使ったものとされ一番古い種類のお香とされています。写仏や写経に臨む前に体を清めるものとして塗ったりもします。お釈迦様が特に好んだ香木は白檀であったようです。

お香の歴史は、いまから約1500年前にさかのぼり、538年飛鳥時代、仏敎儀礼と共に香が伝来されています。595年に淡路島の海岸に2層にも及ぶ大きな流木が漂着した時、香木とは知らずに焚火をしたところ、淡路島中がいい香りに包まれたことから、これは特別な木であると朝廷に献上されたという話が残っています。博学な聖徳太子は「この木は『沈香』である」と言ったという。この香木が漂着した海岸のそばに枯木神社という香木を御神体に祀っている社があります。現在、淡路島は全国の線香生産量の7割シェアを誇ります。

奈良時代753年には、唐招提寺を建立した高僧鑑真和尚が中国から来日、鑑真和尚は医学の知識が豊富だったため、お香の原料や調合技術を日本にもたらし、漢方薬の処方も伝えたと言われています。当時のお香は神仏の前だけに奉るものとされ

ておりました。平安時代に入ると優雅な香文化が芽生え、宮中の貴族たちは、数種類の香木を調合したお香を部屋にくぐらせていたようです。平安の世は未婚の男女が同じ部屋にいることが許されない時代、部屋を出る間際、自分の性格や容姿を表現した香りのお香を焚いてから退出したという。そして、部屋の残香から、男性を想う女性、あるいは女性を想う男性が、お互いを想像したというロマンチックな話が残っています。鎌倉時代には、香木そのものと向き合いひとつひとつの香木の香りをきわめようとする精神性が尊ばれるようになります。江戸時代



に入ると、一部の限られた人たちしか用いることが出来なかった「お香」を一般庶民が普通に使用することが出来るようになり、様々な形式、形状が生まれました。ところが、明治維新で古い文化は排除され、香りの文化は一時衰退の危機を迎えましたが、西洋人によって再び日本独自の香り文化がもたらされたことにより、和の香りとしてお香文化は復活を遂げました。現在の豊かな香り文化の背景には、その時代ごとに香りをうまく取り入れ、発展させてきた日本人の知恵と工夫の集大成であると言われております。

2月15日は、お釈迦様が入滅された日になります。お釈迦様が倒れ、今まさに涅槃に入ろうとしている姿を描いたものが涅槃図です。涅槃図の中には、「かりろく」と呼ばれる香り袋が描かれています。「かりろく」の中には不老長寿の薬と言われる

「訶子の実」が入っており、その他、沈香、乳香、など数種類の香木と香原料が入っています。新年を迎える際の魔除け、お守りとして玄関や柱に掛けたりもします。

生母・摩耶夫人が息子を助けようと、天上からポンと「かりろく」を投げたところ沙羅双樹の木の枝に引っかかってしまい、お釈迦様に届かなかったという説がありますが、あえてお釈迦



様は受け取らなかったという説もあります。

最後に、香りの持つ効能が現代社会に良いとされることについて触れておきましょう。「香り」と「漢方」は「医香同源」と現します。香木のように香りを聞くもの他に、漢方薬やスパイスとして使われるものがあります。香りには、心と体のバランスを整える作用があるとされています。現在、大学では、お香の香りと体の関係性についての研究が進められ、香りには心身をリラックスさせ、集中力を高める作用や、体の緊張感を解放し、ホルモンの働きを高める作用があることを実証しました。

香りは、目には見えませんが、とても不思議な力を持っています。体の衰えは嗅覚からきます。お香の香りに限らず、様々な香りを意識する日常生活を送ってみてはいかがでしょうか。と話を結んだ。

地区仏教会だより

第28回「仏」のお話を

聞く会

本庄市仏教会

去る10月13日、埼玉グラウンド

ホテル本庄において、第28回を迎える『仏』の話を聞く会』が開催された。主催は本庄市仏教会（大野宏文会長）。参加者は市内寺院檀信徒約110名。

講師に群馬県正泉寺住職の白石凌海師をお招きし、『生きる死者 災害と仏教』と題し講演をいただいた。白石師は、東日本大震災発生直後から被災地へ幾度となく赴き、仏教者として、また研究者として、人々はいかにして災害を乗り越えてきたのか、災害死という突然の別れからどのような立ち直ってきた

たのかを研究テーマに考察。誰もが直面する「死」との向き合い方を説きながら、「姿が見える」、「すすり泣く声が聞こえる」、「感触がまだ残っている」など生者の中に生き続ける「死者」の存在など、死者との向き合い方や、被災地で起っている人々の心の問題にも触れ、現代医療のみならず、仏教の精神風土に習ってケアをすることが有効ではないかと提言した。

「羽生市・行田市仏教会

合同研修会」

羽生市仏教会

行田市仏教会

平成30年12月9日、羽生地区（浅野守信会長）は、羽生市内の富徳寺客殿で行田地区（福島伸悦会長）と合同で、講師に行政書士でファイナンシャル・プランナーでもある勝桂子氏を迎えて、『イエナキ時代に檀家制度の息吹を取り戻す〜お寺を看

取りステーションに〜』と題する講演会を行った。

勝氏は、現代の寺院の問題点として「寺離れ」、「墓じまい」、「檀家減少」、「葬儀の簡略化」そして「人口減による寺院崩壊」などといった点を指摘した。これらの問題は行田・羽生地区でも対岸の火事ではない。我々は、この現実を受け止めることから始めなければならない。

そんな中で、勝氏が提案したのは「寺の機能を檀家制度が隆盛だった頃に戻そう」ということである。実際、「檀家制度は幕府が強制的に決めたことであり、仏教が墮落した大きな原因である」などとマイナスのイメージのある言葉で語られることが多い。しかし当時の寺は、子供たちにとっては『遊び場』、であり寺子屋であったし、大人たちにとっては悩み事相談所であり、祭りなどが行われる憩いの場であった。いわば、村は寺を中心に機能し、住職はそこで

重要な役割を果たしていたのだ。ところが、寺はいつのまにか、こうした機能をなくしてしまい、葬式のみが残ったと言えるかもしれない。さらに最近は、その葬式も葬祭場で行われるようになっており、住職は葬儀の主催者で、寺は先祖の遺骨を預かる所というイメージでさえ見られかねない。勝氏の「檀家制度が隆盛だった頃に戻す」という提案は、一見消極的にも見えるが、寺再生のための手段としては有効なように思える。

さて勝氏は、現代では「メンタルヘルスの問題を抱える人が急増している」と指摘している。おそらく江戸時代であったならば、こういった人々はお寺に相談に訪れたのであろう。しかし現代では「新宗教・パワースポット・占い」などが、そのニッチに進出しているという。こうした悩みを抱える人々を再び、寺に戻すことは可能であろうか？

ここで問題になるのは、江戸時代と現代の環境の変化である。すなわち、かつてならば寺の住職が解決していたであろう心の問題も、その多くがカウンセラーや精神科医が扱うべき問題となつていく。ならば、できることを探してゆくしかないであろう。たとえば寺を、ストレスフルな俗世間から離脱できる癒しの場とする方向を探る。そこはパワースポットほどではないにしろ、仏が祀られ、木や花に囲まれ、先祖たちが眠る場所である。そこでは社会的関係を離れて、安心して悩みごとが話せる場所でありたい。

さらに勝氏は、寺院が死後事務を頼める相手になることを提案する。特に一人暮らしの老人の場合、普段の健康チェックを含めて、身近にある寺が役立てることは多いだろう。

すると、メンタルヘルスの問題を含めて、医師や看護師あるいは法律の専門家などとの連携も不可欠となる。あるいは住職がカウンセラーや介護士などといった資格をとるべきなのかもしれない。しかし、現代においては、何でも対応できる超人的な僧を期待されても、それは不可能である。そういう意味でも、近隣の寺院同士が宗派を超えて、地域の問題意識を共有し、ともに連絡を取り合いながら対応してゆくことの重要性を感じた。

(報告・羽生地区会長 浅野守信)

第37回仏教講演会開催

岩槻仏教会

平成31年3月25日(月) 岩槻仏教会は岩槻本丸公民館視聴覚ホールを会場に毎年お彼岸明けに行っている「仏教講演会」を開催した。第37回の講師は千葉県成田市の曹洞宗長寿院住職でNPO法人自殺防止ネットワー



ク風代表の篠原鋭一先生で、来場者約120名が参加し、1時間半の講演が行われた。まず、大久保俊雄副会長(曹洞宗)が開会のことばを述べ、続いて遠藤隆雄会長(真言宗智山派)が挨拶を行った。講演は「今日が本番 今が本番 この一瞬こそが本番」というテーマで、都市化が進んで人間関係が希薄になり、「孤独・断絶・孤立」という苦悩を持つ人々が増加し、「無縁化」してしまった社会をいかに「有縁化」していくかについて、仏教の教えを分かりやすくお説きいただいた。また、本来、人生には定年はなく、老後(老いたあと)や余生(余ったいの

ち)もない。「人生の師匠として、この生命をいききる」という気持ちを保つことの大切さなど、講師の熱意がこもった話に来場者は大いに元気づけられた。最後に川端清光副会長(浄土宗)が謝辞と閉会のことばを述べ閉会となった。

(報告 岩槻仏教会事務局 齊藤 実朗)

「東日本大震災追悼法要」

行田市佛教会

平成31年3月11日(月)午後2時46分から、東日本大震災で被災し逝去された方々への追悼法要が長光寺(導師・行田市佛教会会長福島伸悦師)本堂にて、厳修された。参加者は、僧侶8名、檀信徒45名であった。その後、谷英美氏による「金子みすゞの詩の朗読とお話」が行われた。谷氏は、震災前より被災地にお

いて講演活動をおこなっており、当時の被災者の心情を金子みすゞの詩に重ね合わせ、祈りや命の大切さを伝える講演であった。
(事務局柿沼和秀)

トピックス

「埼玉同宗連」

第48回研修会

平成30年10月17日(水)、「埼玉同宗連」第48回研修会が埼玉佛教館にて開催され、約80名が参加した。講師に元児童相談所ケースワーカーの門平公夫氏を招き「児童虐待と子どもの人権」虐待対応13万件時代の現状と課題」と題してご講演いただいた。

まず、齊藤実朗副議長(浄土宗)が開会のことを述べ、続いて主催者を代表して倉持光恭議長(真言宗智山派)があいさ

つを行った。その後、部落解放同盟埼玉県連合会書記長の小野寺一規氏から来賓あいさつをいただいた。

講師の門平氏は、1969年日本社会事業大学卒業後、民間の社会福祉団体・神奈川県庁を経て埼玉県庁へ入庁。福祉事務所・婦人相談センター・児童相談所に勤務し、退職後は24時間虐待通報ダイヤル相談員に従事。

現在は、自立援助ホーム「フレンズハイム」のホーム長をされており、まさに福祉の現場でワーカー一筋な経歴の持ち主。10年前にも「埼玉同宗連」研修会にてご講演いただいており、この10年ですごい変化が起きたかななどお話しいただいた。演題にもあるとおり、現在の虐待対応件数は約13万件。これは虐待もしくは虐待の疑いにより調査等で関わった件数で、この10年間で3・3倍になっているという。年々増えていく対応件数に対し、児童相談所は常に人手



不足でベテラン不足。「親の支援」と「子どもの保護」を両立しつつ個別の案件に対応していかなければならない上に、中々子どもに会わせてもらえなかったり、親から罵声を浴びせられたりすることも多いため、長期間働くことができないという厳しい現場の状況が説明された。一方、「虐待先進国」と言われるアメリカは、いわゆる摘発型の社会で、「親の支援」を担う機関と「子どもの保護」を担う機関がそれぞれ独立しており、

虐待が起きた後の対応に力を入れているとのこと。しかし、アメリカでは虐待の予防はできていないため、日本はこれからアメリカの様な方式を参考にしつつも、母子手帳や検診、すべての国民が何らかの公的医療保険に加入し、お互いの医療費を支え合う「国民皆保険制度」といった日本の良さを活かしてケアや予防を推進していく必要があるということが述べられた。最後に、子どもを保護された母親が刃物を持って施設に乗り込んできたことや、何とかうまくいきそうだと思っていた矢先に自死をしてしまった子のことなど、様々な現場のお話をご紹介いただき講演は終了。終わりに、廣田賢也副議長(曹洞宗第一宗務所)が謝辞、閉会のことを述べ閉会となった。(本間)



「さいたま市現地学習会」

平成30年11月12日(月)、さいたま市見沼区にある五反田会館で「さいたま市現地学習会」を実施した。開会に先立ち、倉持光恭議長(智山派)が主催者あいさつを行った。

研修では、最初に五反田会館の三澤館長から施設の沿革や活用状況について説明がなされた。五反田会館は、人権教育・啓発を推進するための学習施設で、



昭和62年の開館当初は職員が常駐しておらず、何か事業があるときに解錠する運営形態をとっていたが、平成13年の増改築で機に職員が常駐するようになったことで、地域住民が気軽に利用できるようになったという。

三澤館長の説明の後は、元中学校教員で五反田会館協力員(臨時職員)の古河邦子氏から「人権確立を目指すまちづくり、さいたま市立五反田会館とわたし」と題してご講演いただいた。古河さんによると、五反田会館周辺の被差別部落は12、3軒という少数ながらも、江戸時代には周辺34ヶ村の牛馬の処理権を持つなど比較的裕福な生活を送っていたため、残り続けたという。古河さんは、このように少数の被差別部落住民が混住する地に親の反対を押し切って嫁いできたが、被差別部落住民からは、あえて部落について教えることもないと距離をとられる一方、周りの住民からは理不尽

な差別を受けるなど、板挟みに苦しんだとのこと。その後、時間をかけて交流を深め、地域の仲間と協力して五反田会館の設立に携わり、平成13年の増改築以来、17年間、協力員として働き続けているという。働き始めた当初はあいさつを無視されることもあったが、今では年間1万7千人もの利用者があり、皆と明るくあいさつを交わすようになったと笑顔で語ってくださった。講演後は、会館裏手にある南中丸東公園と白山神社を見学し、学習会の結びに齊藤実朗副議長(浄土)が閉会謝辞を述べ閉会。

「人権埼玉実行委員会」

第24回東京集会

・政府要請行動

平成31年1月28日(月)、人権教育・啓発推進埼玉県実行委員会「略称・人権埼玉実行委員

会」(倉持秀裕会長)は、衆議院第一議員会館で「第24回東京集会」を開催した後、総務・法務・文部科学・厚生労働・国土交通の五省に分かれて要請行動を実施した。東京集会では、開会あいさつを「埼玉同宗連」相談役の藤井壽雄師(本願)が行い、続いて倉持秀裕会長が主催者あいさつを行った。続く政府要請行動では、備前島賢光相談役は総務省、藤井相談役は厚生労働省、「埼玉同宗連」(小池)は法務省への要請を行った。



討報

事務局日誌

お悔やみ申し上げます。

平成31年 2月

8日 深谷市満福寺(豊山)

野口 桓夫 師(74歳)

9日 行田市長久寺(智山)

井桁 精明 師(63歳)

11日 越谷市照光院(智山)

蛭田 武秀 師(81歳)

20日 川口市隨泉寺(智山)

渡邊 智雄 師(88歳)

元・代議員

3月

4日 さいたま市大龍寺(曹洞)

目黒 修道 師(68歳)

11日 幸手市東光院(豊山)

奥原 精哉 師(95歳)

4月

14日 草加市西願寺

丹波 尊照 師(92歳)

元・代議員/元・埼玉佛保会長

平成31年 1月

7日▼事務局仕事始め

10日▼「解放同盟」県連旗びらき

(ホテルガーデンパレス熊

谷/金子局長・本間)

11日▼「埼玉青」写仏

12日▼「埼玉保」佛教幼児画展

準備会(埼玉会館)

12日▼「埼玉保」新年懇親会(浦

和・よね田)

▼「埼玉保」第34回埼玉県

佛教保育幼児画展(〜13

日 埼玉会館)

23日▼「埼玉連」新年懇親会(浦

和・勇寿司)

25日▼新年懇親会(ロイヤルパ

インズホテル浦和)

28日▼「人権埼玉」政府要請行

動(衆議院第一会館/小

池)

30日▼「全仏」新年懇親会(金

子局長・小池)

2月

7日▼「埼玉同宗連」役員会・

新年懇親会(浦和・山崎

屋)

12日▼第11回埼玉佛仏教文化講座

14日▼子どもの貧困問題を考え

るセミナー(さいたま商

工会議所/本間・大塚)

22日▼平成30年度宗教法人研修

会(埼玉会館)

25日▼平成30年度宗教法人研修

会(ウエスタ川越)

26日▼教化委員会

「埼玉青」写仏

3月

4日▼総務委員会

8日▼組織委員会・財務委員会

▼「解放同盟」狭山事件集

会(金子局長・本間)

11日▼「埼玉青」梵字勉強会

12日▼「埼玉青」写仏

13日▼「埼玉青」講演会

25日▼平成30年度第2回代議員

会議・平成30年度第4回

理事会

29日▼平成30年度第1回臨時評

議員会議

4月

3日▼「埼玉保」平成31年度第

1回役員会

4日▼「埼玉同宗連」平成31年

度第1回役員会

5日▼「埼玉連」平成31年度第

1回理事会

9日▼「埼玉青」写仏

10日▼「人権埼玉」幹事会(埼玉

玉人権・同和センター/

本間)

職員紹介



大塚美紀

小池主事補の後を受け、1月より事務局でお世話になっております大塚美紀と申します。まだまだ至らぬ点ばかりですが、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。幼少の頃からずっと、さいたま市に住んでおります。事務局にお越しの際には、お気軽にお声かけください。